注意点1

チョーキングの秘訣は 親指と手首の使い方にあり!

チョーキングをする際の最大のポイントは、弦をしっかりと持ち上げられるかということ。まずは、初心者にありがちなチョーキングを見てほしい(写真①&②)。このように親指がヘッド方向に向きネックをベッタリと握ってしまうと、手首が固定されて指に力が入らない。そのため、しっかりと弦を持ち上げることができないのだ。これを避けるためには、人差指と親指でネックをしっかりと握り込むようにすると良いだろう。そして親指をネックの上から出し、小指をネックに近づけるように手首にひねりを加える感じで弦を持ち上げれば、しっかりとチョーキングができるはずだ(写真③&④)。指だけの力で持ち上げようとすると、指が寝てしまうので注意しよう。



親指がヘッド方向を向き、ネックをベッタリと握ると……



指だけの力で弦を持ち上げるため、指が反ってしまう。



親指をネック上から出し、人差指と親指でネックを握ろう。



手首のひねりで弦を上げる。押弦している指は立てたままで!

注意点2

ハイ・ポジションでの中指によるチョーキング

ギタリストにとって、薬指は "薬を塗るため" よりも "チョーキングをするため" にあるのは 間違いない。そのため、まずは薬指でのチョーキングに慣れてもらいたい。しかし、ロックでは中指でチョーキングするフレーズも登場する。特にハイ・ポジションでは、フレット間隔の都合上、中指によるチョーキングが増える。このフレーズでは、3 & 4 小節目に中指によるチョーキングが登場するが (写真⑤~⑧)、指が反らないように注意してほしい。中指1本でも手首のひねりを用いれば、しっかりと弦を持ち上げられるだろう。チョーキング後は、人差指で3弦に軽く触れてミュートを行なうこと。チョーキングをきれいに演奏するために、必ず人差指によるミュートを行なってほしい。



中指による押弦。親指をネックの上から出して構える。



人差指による押弦。チョーキング後のミュートも忘れずに。



中指 1 本によるチョーキング。中指が反らないように注意。



薬指による押弦。次の中指の押弦準備もしておこう。

~コラム 20 ~

地獄の戯れ言

チョーキングは、弦を持ち上げるため隣の弦に指が触れ、ノイズを生み出しやすい。たとえしっかりと弦を持ち上げていても、他の弦が振動し、ノイズを出してしまっては、きれいなチョーキングとは言えない(写真®)。これを避けるために、チョーキングをしていない他の指でミュートをするようにしよう。薬指でのチョーキングでは、人差指を弦の上に広げてミュートをすると良い(写真®)。この時、人差指は弦を押さえるのではなく、そっと触れるようにしよう。慣れるまでは、常にミュートをすることを意識すること。慣れてくれば、チョーキングとミュートは、曖昧にセットでできるようになるはずだ。

チョーキングのノイズ対策法



2弦をチョーキング。3&4弦はミュートされているが、5 & 6 弦が鳴ってしまい、ノイズが発生している。



人差指は4 & 5 弦、親指は6弦に軽く触れることよって、 ノイズをカット。これならワイルドに弾いても OK だ!